



寿命と時間

卒業式が終わり、今年度も終わりが近づいてきました。この一年を振り返ると、長かったようにも、あっという間だったようにも感じます。今回は小学校の国語の教科書に出てきた医師の日野原重明さんの言葉を紹介しようと思います。

「寿命とは、時間のことです。私がイメージする寿命とは、手持ち時間を削っていくというのとは反対に、寿命という大きな空っぽの器に、精いっぱい生きた一瞬一瞬を詰め込んでいくイメージです。」

私たちはふだん、「命」という言葉を特別なもののように入考えます。しかし、毎日を過ごしている時間そのものが、そのまま自分の命だと言われると、少し見え方が変わってきます。何気なく過ごした日も、うまくいかずに悩んだ日も、夢中になって取り組んだ時間も、すべてが同じように流れ、積み重なっていきます。

一方で、哲学者ニーチェは、人間の生をもっと大きな視点から見つめました。長い歴史の流れや、広い世界の中で考えると、一人の人間の一生は、ほんの一瞬の出来事にすぎないとも言えます。限りある大切な時間だと考えることもできれば、大きな世界の中では、とても小さな出来事だと考えることもできます。どちらが正しいというわけではなく、どちらの見方もできるのが、人の生きている時間なのかもしれません。

私は、自分の人生で世界の歴史や流れを変えることはできないので、「人生は思い出作り」と考えています。そのためには、日野原さんのように一瞬一瞬の時間を大切にし、思い出に残る時間を過ごせるようにと思っています。

今年度ももうすぐ終わり、新しい年度が始まります。これまで過ごしてきた時間があり、これから過ごしていく時間があります。その時間を長いと感じるのか、短いと感じるのか、大切だと思うのか、小さなものだと思うのか、答えは一つではありません。ただ、こうして一年の終わりに立ってみると、自分がどんな時間を過ごしてきたのか、そしてこれからどんな時間を過ごしていくのかを、少しだけ考えてみたくになります。

以上、小学部吉野でした！